

側室の無聊

ふりよう

新 秋田逍遙

文・写真 津島修三

第19回

横手市の名勝・滝ノ沢。

横手公園の裏手で、所在地は横手市睦成字滝の沢地内、となっている。

横手市民の頼いのスポット……と言いたいところだが、手前の駐車場に車を止めてから滝まで歩いて5分ほどの小さな峰越しの山道は、うっすらと落ち葉枯れ枝が積もり、まるで世間から忘れ去られた場所であるかのように、訪れる人もあまり多くはないようだ。

滝ノ沢は、苔に覆われた岩棚を約5分の落差でいく筋もの白糸の

ように滝が流れ落ちていて、目には清涼感がある。

滝ノ沢の案内板には、出羽久保田藩の初代藩主佐竹義宣の側室岩瀬御台がしばしば訪れていたと記されている。

殿様の側室になっていた岩瀬御台は、ある時期に久保田の城を追われ、横手に閉居するようになった。滝ノ沢を訪れていたのはこの頃であっただろう。追放されたのは、恐らくキシシタンになったために義宣と不仲になったからではないか

と、歴史家は述べている(定説ではない)。

岩瀬御台は、会津百万石・芦名盛隆の娘として生まれ、須賀川二階堂家の養女に。後に常陸の国で義宣の側室になり、佐竹氏の国替

えに伴って秋田に移り、そして終のすみ処が横手になったという、波瀾万丈の生涯であった。滝ノ沢の静ひつで涼やかな眺めが、心晴れないことも少なくなかったであろう岩瀬御台を慰めたのだろうか。

古くから霊場としても知られて

いたという滝ノ沢は、昭和十年に五輪塔や薬師如来、不動明王、三十三観音が安置された。しかしそのまま、目を凝らさなければそれと気付かないほどになっている。

たまにはこの地を訪れて、岩瀬御台の無聊に心を寄せてみたいものだ。しかしここは横手市内とはいえず、かなりの山の中。クマにはくれぐれも気を付けてほしいと、無粋なひと言を付け加えなければならぬのも、やむを得ないことだろう。

横手川沿いの横手南小学校付近から東に3キロメートルほどの滝ノ沢へは、カーナビや道しるべを頼りにすれば比較的簡単にたどり着けるが、交通量の多い「みずほの里ロード」を横切る際は気を付けたい